未来へ！ケアマネ座談会

新時代ケアマネの合言葉は「チーム」
人と人との関わりが育む普遍的価値

介護保険制度の開始から25年が経過し、ケアマネジャー（以下、ケアマネ）を取り巻く環境は、大きな変化の時を迎えている。本誌では現場で切磋琢磨しているケアマネの声を聞くべく、座談会を開催。新時代の土壌を作り次の世代へと橋渡しをする年代の管理者、これから事業所を盛り立てていく新人管理者、キャリアアップを目指す30代のケアマネの４名に、明るい未来を迎えるために必要なことを聞いた。

取材協力 ▶

安藤留美さん
介護支援センターなごみ 管理者 主任介護支援専門員。ケアマネ歴20年。厚木介護保険事業所連絡協議会 委員。特養、訪問介護事業所での介護職からケアマネに。
自身が介護を受ける側になったときも想定し、後進ケアマネの育成に注力。

遠藤貴子さん
ひかりデイサービス妻田 管理者 主任介護支援専門員。ケアマネ歴20年。神奈川県介護支援専門員協会ケアマネジメント基礎研修部会等委員。特養、デイサービス等の介護職・サ責を経てケアマネに。
自身の体力維持と、若手が働き続けたいと思える環境づくりに注力。

髙橋創一さん
ひかりデイサービス妻田 介護支援専門員。ケアマネ歴３年。整骨院のレセプト担当から、現事業所併設のデイサービスで介護職や生活相談員、管理者を経て、ケアマネに。
利用者の人生に寄り添うケアマネを目標にスキル向上に努め、主任ケアマネを目指している。

堀内亜樹さん
ルーセントあつぎ 管理者 主任介護支援専門員。ケアマネ歴７年。特養、訪問介護、デイサービスの介護職を経て、ケアマネに。管理者１年生。
若手ケアマネの仕事の継続にも寄与するべく、ケアマネカフェあつぎを主催し、地域のケアマネの横のつながりを作っている。

個人事業主の集まりからチームへ
新しい事業所運営のカタチ

——現在、厚労省の介護保険部会では、更新制の廃止やケアマネ・主任ケアマネの業務の在り方等、さまざまなことが検討されています（表1）。ケアマネ誕生から４半世紀が経過し、まさにいま、変革の時を迎えています。今昔を比べ、「これは変わった」と思うのはどのような所ですか？

安藤　担当件数が増えていますよね。私がケアマネを始めた時は最大件数が34件で、私自身は当時パート勤務だったので18件ぐらいでした。今は44件、ケアプランデータ連携システムの活用等で最大49件。ICTを使って記録の部分はある程度、負担軽減ができるようですが、私は利用者さん一人ひとりに時間をかけてお話を聞きたいと思うタイプなので、ICTを導入しても49件という件数では、利用者さんと向き合う時間を十分に取るのは難しいのではないかなと思います。49件と聞くだけでプレッシャーに感じる部分もあります。一方で、管理者として経営面も少しわかってくると、件数を持たないと事業運営が難しいとも感じています。

堀内　ケアマネは減り、独居や老々介護のご家庭は増えてきて、依頼を断れない現状もありますよね。老々介護等で配偶者の方が疲弊していて、一刻も早く支援を入れなくてはという新規の方がいま、4件くらいあります。以前担当していた方のご家族が要介護になったりと、ご依頼もあるので、とても嬉しいことではあるのですが、件数は増える一方です。訪問が複数回必要な方も少なくありません。今日は訪問6軒でした。当社はICTをかなり導入して、記録はとても楽になりました。でも、私も利用者さんと向き合う時間を大切にしたいので、今の件数が限界かなと思っています。

髙橋　私はケアマネになって3年程度で、件数の変遷を経験していません。報酬改定の度に対応を変えて、やっと出来上がった仕事のペースをまた次の改定で変えるというような変化に対応してきたベテランならではの大変さがあるのだなと思いました。今41件を担当していますが、個人的には、正直、そこまでしんどくはありません。

遠藤　私は髙橋さんの事業所の管理者をしているのですが、スタッフの負担ができるだけ軽くなるように、利用者さんと